

明治安田こころの健康財団 子ども療育相談センター第3回実践報告会

自閉症スペクトラムの特徴と個々のニーズに応じた療育実践

—社会で生きていくために必要なことを、療育を通してどう伝えていくか—

期 日：2019年3月2日（土）

受講対象：自閉症スペクトラム児への療育支援に携わっている方や興味のある方

定 員：60名（定員になり次第締切りますのでホームページ等でご確認ください）

受講料：3,000円（税込み） ※昼食は各自おとりください

会 場：ワйм貸会議室高田馬場 TDビル3階

東京都新宿区高田馬場1-29-9 ※詳細地図は受講証に添付します

〔 JR山手線・西武新宿線「高田馬場駅」戸山口より…徒歩約2分
東京メトロ東西線「高田馬場駅」5番出口より…徒歩約5分 〕

主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021



近年、自閉症スペクトラムを含む発達障害に対する支援システムの整備が進められる中、乳幼児期から成人期に至る教育・福祉サービス利用者の増大が示されています。これまでサービス対象者でなかった人たちもサービスを受けることが可能になり、その結果、社会の中で能力を發揮し価値ある存在として生きていくことを可能にしているという成果が示されています。一方、乳幼児期の児童発達支援事業や学齢期の放課後デイサービスの拡充、特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室、特別支援教室などの特別支援教育の拡充に伴って、全体の子どもの人口の減少にもかかわらず利用児童の増加が示されています。2006年の自立支援法によって整備された青年・成人期の日中サービスの利用者も約2倍の数になっています。このように、乳幼児期から成人期に至る支援システムの整備によって、発達障害のある人が社会で生きていくことを保障する基盤が整備され、そのシステムをうまく利用していけば、社会への参加が可能になり生きていけるといような印象があります。一方、一人ひとり違う特徴、一人ひとり違う生活環境の中で人生を歩む個人に焦点を当てた療育実践の報告が少なくなってきました。どんなシステムが用意されても、自閉症スペクトラムの特徴のある子どもが社会で生きていくためには、一人ひとりの特徴やニーズを把握し、必要な療育実践が行われなくてはなりません。

今回の報告会では、それぞれの子どもに対し、どのような目標を設定し、どのような手続きで指導を行なうことで達成できるものは何か？なかなか達成できないものは何か？等について、当センターでの実践を報告します。自閉症スペクトラムの特徴を持つ個人に対して、これからの社会生活で有効となる療育内容に興味のある方の参加を希望します。

【プログラム】

日程	時間	テーマ
3月2日 (土)	10:00~10:50	自閉症スペクトラムの特徴と一人ひとりのこれからの社会生活
	11:00~11:50	実践報告1：幼児期
	昼食（各自おとりください）	
	12:50~13:50	実践報告2：就学前（年長幼児）
	14:00~15:00	実践報告3：学齢期
	15:10~16:00	自閉症スペクトラムの行動障害の変化と療育：40年の概観

《 明治安田こころの健康財団 子ども療育相談センター 》

山藤 由紀・田代 結・新井 利明・中嶋 由希子・天野 昌子
薄葉 紗蘭・有馬 由紀子・湯浅 麻衣・大岡 駿介